

# ソフトテニス協会

## 昭和元年(1926年)創立

### 1) 創始期

ソフトテニス（旧称・軟式庭球）は明治23年（1890年）に始まる日本独自のスポーツである（現在は韓国や台湾、欧米などの諸外国に普及し、世界選手権大会が開かれている）。茅ヶ崎では大正11年（1922年）頃から、今のイトーヨーカドーとダイクマ（ヤマダ電機）の土地にあった醤油工場と製紙工場の2コートで始まった。故・益子麟太郎副会長が昭和元年記念メダル「1926・茅ヶ崎軟球倶楽部」（体協60年記念誌に写真掲載）を保管しておられたことから、当会は昭和元年（1926年）を創立の年としている。平成18年（2006年）には創立80周年を祝っていくつかの記念事業を催した。

### 2) 昭和20年代まで

昭和元年、今の電話局付近にあったいわゆる野中別荘に新設されたコートを中心に発展し、平塚との交流も盛んになった。昭和10年（1935年）から県選手権で益子麟太郎氏が単複で2連覇を達成している。

第2次大戦後まもなく、端山鉄工所や東邦チタニウムのコートが所有者のご好意で練習用に提供され、昭和27年（1952

年）の第1回市民大会開催（端山鉄工所）、翌28年の体協加盟によって正式な活動が復活した。

### 3) 昭和30年代から

昭和30年（1955年）に市営茅ヶ崎公園コートが完成して中学生の大会が始まり、市と体協の後援を得て発展の時代を迎えた。昭和46年（1971年）に始まった全国選抜招待（インビテーション）大会は全国に反響を呼び、昭和53・54年（1978・1979年）には県連盟・日本連盟から優秀団体として表彰された。現在のソフトテニス教室は昭和50年（1975年）、中学生指導者講習会は昭和55年（1980年）、家庭婦人大会は昭和56年（1981年）に始まり、生涯スポーツの推進に寄与すること大である。

対外試合における選手の活躍も目覚ましく、昭和46年以降は関東・東日本・県大会の優勝者を輩出した。昭和46・47・51年には県チーム対抗戦優勝、昭和51・54・56・平成13年には国体に県代表を送り出し（昭和56年（1981年）は久保現副会長が優勝、平成13年（2001年）は福室会員が3位）、昭和60・62年（1985・1987年）の県総体では人口数

100万人の大都市に伍して2回の優勝を果たした。とくに平成15年(2003年)に鶴が台中学出身の森田英世選手が全日本選手権大会で優勝して日本ソフトテニス界の頂点に立ったことは、当会83年の歴史の中で最大の快挙である。

また少子・高齢化や指導者不足が言われるなかで、平成19年(2007年)は県

大会で北陽中学校(男子)が優勝、円蔵中学校(女子)が3位に入賞し、鶴嶺高校に小松先生、平成20年(2008年)からは茅ヶ崎高校に亀山先生という強力な指導者が着任された。今後も市体協と市スポーツ課のご支援を得ながら、このスポーツの歴史と伝統を「茅ヶ崎市民の文化遺産」としてさらに発展させていく所存である。



創立80周年記念 茅ヶ崎ソフトテニス協会親睦大会 58名参加 2006-12-17



(平成20年度県総体)